

学 校 教 育 目 標	自信と誇りに満ちた指中生 ～WE LOVE SASHIOGI ～
目 指 す 学 校 像	生徒の望ましい成長を支援する学校
重 点 目 標	1 学びの動機付けを意識した学習指導の工夫改善 2 よりよい集団づくりに向けた生徒指導・教育相談体制の充実 3 地域と共につくる魅力ある学校づくりの推進 4 安心・安全な教育環境の整備 5 一人ひとりが持ち味を発揮し、熱意と誠意、創意をもって教育活動に当たる教職員集団の育成

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○各教科の授業や総合的な学習の時間などで、タブレットを活用して、主体的・対話的で深い学びを推進している。 ○主体的な学びの実現に向けて、ＩＣＴ支援員等と連携した校内研修を行い、教員がＩＣＴを活用した授業が行われている。 〈課題〉 ○生徒が主体的に物事を考えられるよう、学びの動機付けの充実を図っていく必要がある。 ○教員によるＩＣＴを活用した授業は増えているが、生徒がＩＣＴを活用して学び合う活動を一層取り入れる必要がある。	○主体的に学習に取り組む態度の涵養	①主体的に学ぶ生徒を育成するために、タブレットを活用した学び合いの授業を実施する。 ②自らの成長を実感するために、授業の終末等には、学習を振り返る時間を設定する。	①「学びの指標アンケート（２回目）」の項目１５で２．７ｐｔにする。 （Ｒ７：２．５９ｐｔ） ②「学びの指標アンケート（２回目）」の項目５で３．４ｐｔにする。 （Ｒ７：３．３２ｐｔ）					
		○ＥＳＤを通じた学びの動機付け	①学びの動機付けを図るため、関係機関と連携し、生徒及び教職員のＥＳＤの理解を深める。 ②各教科・各学年で、生徒によるタブレットの効果的な活用について実践・共有を進める。	①大学講師による、講演を実施する。 （年２回） ②「さいたま市学習状況調査」の生徒質問紙調査の項目５３で２ｐｔ向上させる。 （Ｒ７：２４％）					
2	＜現状＞ ○教育相談部会資料に事前に生徒情報を入力しておくことで、支援・配慮が必要な生徒に関する情報交換が検討できている。 ○さわやか相談室、Sola るーむ、個別の取り出し指導など、教室以外での学ぶ機会が確保できている。 ＜課題＞ ○調査結果から、約２割の生徒が大人に相談できないと回答していることから、積極的に相談場所や機会を設ける必要がある	○確実な情報共有と支援策の検討	①保護者への情報提供を適時適切に行う。 ②適切な支援に向けた手立てを素早く講じるため、校内でケース会議を開き、関係機関等と素早く連携する。	①教育相談週間を設け、全ての生徒の実態を把握する。（学期に１回） ②教育相談部会（週１回）での検討を基に、ケース会議を実施し、生徒への支援へ反映させる。（随時）					
		○生徒理解に基づく指導の充実	①ＳＣやＳＳＷ等と連携し、教育相談的な手法により、生徒の実態を適切に把握する。 ②個々の生徒の学習環境の整備のため、地域ボランティアやＳＡと連携したSola るーむの運用を図る。	①「学校評価」項目「相談できる」でＡＢ回答合わせて５ｐｔ向上させる。 （Ｒ７：８０％（生徒）８０％（保護者）） ②教育相談部会にて、Sola るーむ運用の工夫・改善に係る協議を実施する。 （年３回以上）					
3	＜現状＞ ○地域のお祭りやボランティア等、多くの生徒が積極的に参加している。 ○地域防災アドバイザーと連携し、避難訓練や集団下校等を実施している。 ○スクリレや学校ＨＰを活用し、生徒の学校での様子を保護者や地域の方々に発信している。 ＜課題＞ ○地域の行事に参加する生徒をさらに増やす必要がある。 ○地域防災の観点から避難所運営訓練への生徒の参加を促し、共助の意識を高める必要がある。 ○学校ＨＰに公開している内容を精査し、保護者や地域の方々にとって有効的な情報になるよう工夫する必要がある。	○地域行事への参加を促し、生徒と地域との交流の活性化	①学校地域連携コーディネーターと連携し、地域行事の広報について、校内に掲示する。 ②学校運営協議会において、生徒を協議に参加させる。	①地域行事への生徒の参加数を、前年度よりも１０人増やす。（Ｒ７：５１人） ②学校運営協議会において、生徒が発言する場を設ける。（年２回）					
		○積極的な情報発信を通じて学校経営の理解促進	①保護者会や学校公開を行い、直接的な説明や学校揭示等で、学校経営方針の理解を促す。 ②スクリレや学校ＨＰで学校の様子を積極的に配信する。	①保護者会の設定と学校公開期間を設定する。（毎学期） ②「学校評価」項目「情報発信」で、Ａ回答５ｐｔ向上させる。（Ｒ７：５２％）					
4	＜現状＞ ○生徒会活動では、各委員会において生徒主体で活動し、自分たちの活動の見える化を進めている。また、環境委員会を中心に、業務主査とも連携し、校内環境の美化に努めている。 ＜課題＞ ○生徒会を中心に、さらなる生徒の自主的な活動を促し、生徒が主体となる学校づくりを進める必要がある。	○安心して学べる学習環境の整備と校内自然環境を活かした彩りある学校づくり	①生徒の自主的な活動の場を積極的に設け、自治的な活動に繋がるよう、活動の振り返りと今後の活動に向けた提案を実施する。 ②環境委員会を中心に業務主査と連携して花植えを実施するとともに、生徒の提案を大切にした緑化活動を実践する。	①「学校評価」項目「落ち着いた学校生活」でＡ回答５ｐｔ向上させる。 （Ｒ７：５２％） ②「学校評価」項目「きれいな環境」で、ＡＢ回答合わせて３ｐｔ向上させる。 （Ｒ７：８７％）					
5	〈現状〉 ○服務についての意識は比較的高く、業務に対して誠実に取り組んでいる。 ○時事的な教育課題に対応するため、校内研修等で情報共有を行っている。 〈課題〉 ○教職員の年齢層が若いため、キャリアステージに応じて資質の向上を図っていく必要がある。	○キャリアステージに応じた研修推進と、同僚性や協働性による業務負担軽減	①講師を中堅教諭等が担い、キャリアステージに応じて output と input を意識した校内研修（年１２回）を実施することで、資質の向上を図る。 ②日常的な声掛けや校長室の開放等による風通しの良い教職員関係を構築することで、負担感の軽減を図る。	①「学校評価」項目「組織対応」でＡ回答５ｐｔ向上させる。（Ｒ７：２９％） ②令和９年度当初人事に関する調書の「満足度」の項目「非常に満足」と「やや満足」合わせて、５ｐｔ向上させる。 （Ｒ７：６０％）					

